



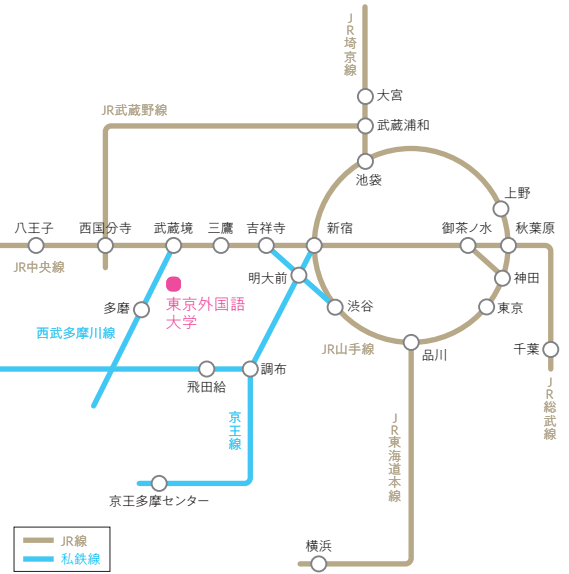
電車

- JR中央線
「武蔵境」駅のりかえ
西武多摩川線「多磨」駅下車 徒歩5分

- 京王線
「飛田給」駅下車 徒歩20分

電車 + バス

- 京王線
「飛田給」駅下車
北口より「多磨」駅行き京王バスにて約10分
「東京外国語大学前」下車



西武多摩川線「多磨」駅までのアクセス ※目安時間

- 東京駅から 中央線快速利用 46分
- 上野駅から 京浜東北線・中央線快速利用 52分
- 横浜駅から 東海道本線利用 67分
- 千葉駅から 総武線快速・中央線快速利用 98分
- 大宮駅から 埼京線・武蔵野線利用 69分



国立大学法人 東京外国語大学
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
<http://www.tufs.ac.jp>

お問い合わせ先
Tel 042-330-5179

東京外国語大学

大学院総合国際学研究所
博士前期・後期課程案内

2019

C o n t e n t s

総合国際学研究科概要	3
博士前期課程	4
将来につながるキャリア	4
世界言語社会専攻	6
国際日本専攻	8
開講科目	9
修士論文	10
博士前期課程教員一覧	11
博士後期課程	12
世界言語社会専攻	12
国際日本専攻	13
共同サステイナビリティ研究専攻	14
博士後期課程教員一覧	15
主な就職先	16
研究科長メッセージ	17
2019年度入学者選抜日程	18

TUFS
towards Interculturality
through Language and Area Studies

総合国際学研究科概要

世界を学ぶ、日本を学ぶ 博士前期課程

世界言語社会専攻と国際日本専攻の
2つの専攻からなります。

世界言語社会専攻	1 言語文化コース (50人) 2 国際社会コース (40人) 3 Peace and Conflict Studies コース (12人)
国際日本専攻	国際日本コース (40人) 日本語教育リカレントコース (6人)

人文社会科学諸分野を究める 博士後期課程

世界言語社会専攻と国際日本専攻、
共同サステイナビリティ研究専攻の
3つの専攻からなります。

2019年春、
博士後期課程が
変わります。

世界言語社会専攻 (27人)	国際日本専攻 (10人)	共同 サステイナビリティ 研究専攻 (3人) 2019年度設置申請中
-------------------	-----------------	--

東京外国語大学大学院総合国際学研究科は、世界諸地域の言語・文化・社会をめぐる個別的かつ総合的な研究を主体とする我が国でも有数の教育機関であり、これらの分野における国際的拠点としての使命を担っています。

従来から我が国と交流関係の深かったアジア地域、ヨーロッパ地域、アメリカ地域の言語・文化・社会に関する研究と教育では、百年を超す伝統を誇っています。その後、本学が研究・教育対象とする地域は拡大し、現在では、東南アジア、中東、東欧諸地域の言語・文化・社会の研究と教育も行うなど世界的な拠点となっています。また、日本研究および日本語教育の国際的拠点でもあります。このような背景をもつ本学大学院は、研究者を含む高度職業人の養成を目指しています。グローバル化が進行する現代社会では、真に貢献できる人材に対し、専門分野のより深い知識や高度な技術が求められています。本学大学院は、研究力に加え、総合力、実践力、そして世界で活躍するうえで必要な日本力を身につけ、世界や日本でグローバルに活躍することを目指す皆さんの挑戦を待っています。

将来につながるキャリア

大学院は専門的な研究の場であると同時に、修了後の皆さんを社会へとつないでいく場でもあります。専門分野での学術的な研鑽を活かすためにも、次のステップを意識した準備を進めましょう。大学院博士前期課程では、修了後のキャリア形成につながる複数のプログラムを用意しています。これらは、いずれの専攻、コースに所属していても履修することができます。一定の単位を満たした場合には、キャリア・プログラムごとに「プログラム修了証」が授与されます。大学院での学びを活かし、世界や日本のさまざまな現場で働く「夢」をもつ皆さんを、後押しします。

キャリア・プログラム

キャリアにつながる幅広い知識・技能の学修を目指したプログラム

Program 1	Program 2	Program 3	Program 4	Program 5
日本語教育実践プログラム 世界の各地や日本のさまざまな場所で、日本語をきちんと教えることのできる人が必要とされています。だからこそ、「日本」を専攻する大学院生だけでなく、世界の「言語・文化・社会」を学ぶ大学院生の多くに履修してほしいのが、この日本語教育実践プログラムです。外国語としての日本語とその教え方について学び、短期の実習も行います。在学中および修了後に、国内外で日本語を教えるための基本的な知識と経験を獲得しましょう。	多文化コーディネーター養成プログラム 多言語・多文化化する日本では、教育、行政、地域社会などの各分野で、文化や価値観の異なる人々との共存に向けてコーディネーションが行える人材が求められています。本プログラムは、日本社会の今を多面的に学び、多文化社会におけるコーディネーションに必要な知識を身につけるためのプログラムです。専門分野の研究にあたる一方で、プラスαの多文化コーディネーション力も身につけましょう。	CEFRに準拠した新しい外国語教育プログラム 現在、世界の外国語教育は、学習者の習得レベルを示す国際標準規格である「ヨーロッパ言語共通参照枠（Common European Framework of Reference for Languages：通称CEFR）」に基づいた教授・学習・評価が中心になりつつあります。このCEFR準拠の外国語教育の理念や方法を理解し、各言語においてCEFR利用環境を整えることは、将来外国語を専門的に教えたいという大学院生に有益なキャリア知識・技能となり、将来プロとして働く際の必要な素養の一つとなるでしょう。	世界史教育プログラム 「世界史教育1」では、意欲の高い高校教員向けの世界史セミナーへの参加を中心に、歴史教育の深みと現状に触れます。また、「世界史教育2」では、歴史学方法の基礎と史料の読み方について実践的な教育を受けます。	国際行政入門プログラム 将来、官公庁等で行政に携わろうとする大学院生に向けたプログラムで、行政に必要な政治学と経済学に関する基礎知識とその考え方を習得します。また、国家公務員採用総合職試験（院卒者試験・大卒程度試験）、外務省専門職員採用試験を中心に、公務員試験の専門試験（多肢選択式、記述式）に対応できる基礎的な知識を身につけ、実践的な解法を習得します。

新規
プログラム

専門領域単位修得証明制度

専門的なキャリアを目指したプログラム

博士前期課程の在学中に特定の領域に関して身につけた専門的な知識・技能を修了時に証明する仕組み「専門領域単位修得証明制度」を設けています。現在、右に示した領域について、この制度に基づく証明書の発行を行っています。この証明書によって修了生は学修の成果を具体的に示すことができるので、キャリア形成に役立てることができます。キャリア・プログラムが幅広い知識・技能の学修を目的としているのに対して、本制度ではより専門的な知識・技能の学修を前提としています。

本制度の対象となる領域と発行される証明書の名称は次のとおりです。

1	英語教育学	専門領域「英語教育学」単位修得証明書 (Specialization Certificate in Teaching English as a Foreign Language)
2	日英通訳翻訳実践	専門領域「日英通訳翻訳実践」単位修得証明書 (Specialization Certificate in Japanese-English Interpreting and Translation)
3	日本語教育学	専門領域「日本語教育学」単位修得証明書 (Specialization Certificate in Teaching Japanese to Speakers of Other Languages)



世界言語社会専攻では、世界諸地域の言語・文化・社会や国際社会を、
複合的・総合的に捉える視点から研究し、
地球社会化時代にふさわしい多言語グローバル人材を養成します。

言語文化コース

本コースでは、東京外国語大学における言語研究および文化研究の長い蓄積を活かし、世界諸地域の言語・文化に関する専門的教育研究を推進します。英語教育や実践的な通訳翻訳教育も、本コースに含まれます。言語研究の分野では、個別言語に関する文法論や形態論、意味論、語用論などのほか、一般言語学や社会言語学、対照言語学、音声学、言語情報学などを扱います。文化・文学の分野では、世界の諸言語で書かれたテキスト（詩、小説、哲学、思想など）に依拠した研究や、伝統文化や超域文化、古典文化を扱う研究が可能です。本コースでは、世界の言語現象や文化現象への理解を深め、複雑化する言語や文化の状況をより正確に把握し、対処する能力をもった人材を養成します。

[専門科目群]

英語学・英語教育学研究／ヨーロッパ・アメリカ言語研究／アジア・アフリカ言語研究／言語学研究／音声学研究／言語情報学研究／認知科学研究／通訳翻訳実践研究／ヨーロッパ・アメリカ文学・文化研究／アジア・アフリカ文学・文化研究／古典文学・文化研究／人間文化研究 等

国際社会コース

本コースでは、世界諸地域の社会ならびに国際社会に関する専門的教育研究を推進し、コーディネート力、コンフリクトへの耐性を備えた人材を養成します。キーワードは、ローカルとグローバルです。そして、求められているのはその2つの融合です。ローカルな地域研究はもはや存在しません。地域概念そのものがグローバル化によって再編成されているからです。一方、グローバルな国際関係論や政治学、経済学の研究もローカルな現実への理解なくしては、問題の真相に迫ることができません。本学の国際社会コースは、東京外国語大学における長年の地域研究の蓄積を活かし、グローバル化する現代社会を深く理解し、問題解決に資する人材を養成します。

[専門科目群]

ヨーロッパ・アメリカ地域研究／アジア・アフリカ・オセアニア地域研究／現代世界論研究／国際関係研究 等

Peace and Conflict Studies (PCS) コース (10月入学)

紛争を抱えた地域の諸大学とのネットワークを活用した紛争・平和構築に関する研究を推進し、国際社会で活躍し、平和構築に寄与する国際的リーダーを養成します。教育はすべて英語で行われます。

[専門科目群]

Foundation for Peacebuilding／Applied Peacebuilding／Conflict and Social Change／PCS Research Methodology／International Relations and Cooperation

Peace and Conflict Studies (PCS) Course (October Admission)

Peace and Conflict Studies (PCS) is an interdisciplinary research and educational program launched in 2004. It aims to fulfill the recognized need in many parts of the world for professionals with expertise in peace and conflict, violence, peacebuilding, and other related global and transnational issues. Each year the program admits a small but diverse group of individuals from all over the globe and provides them with unique opportunities to learn critical approaches to the issues of utmost importance to many people in today's conflict-laden world. All classes are held in English.

アジア・アフリカフィールドサイエンス・プログラム

世界言語社会専攻の複数のコースを横断するプログラムとして開設されています。「フィールドサイエンス」とは、臨地調査（フィールドワーク）を理論的・実践的に高度化した研究手法のことです。この手法を用いて、アジア・アフリカの諸地域に分け入る研究を指導します。本プログラムは、専攻共通科目の「アジア・アフリカフィールドサイエンス基礎」、「アジア・アフリカフィールドサイエンス実践研究」、言語文化コースの「アジア・アフリカフィールドサイエンス言語研究」、国際社会コースの「アジア・アフリカフィールドサイエンス地域研究」からなっており、本学のアジア・アフリカ言語文化研究所の教員が指導します。夏学期には、他大学の学生とともに学ぶ「中東☆イスラーム教育セミナー」が、本プログラムの一部として開催されます。



国際日本専攻

国際日本専攻では、世界の諸言語の中での日本語・日本語教育、世界の中の日本文化と日本社会を比較の視座をもって研究し、日本についての客観的な視座をもつ人材を養成します。

国際日本コース

世界の諸言語の中での日本語・日本語教育、世界の多様な文化・社会の中での日本文化と日本社会を比較の視座をもって研究し、日本についての客観的な視座をもつ人材を養成します。研究領域としては、「日本語学研究」「日本語教育学研究」「日本語文学・文化研究」「日本社会研究」の4つで構成されます。しかしそれぞれが分立するのではなく、接近する形で研究・教育を行っています。4つの領域をまたがる形で研究することで、全体として日本への理解を深めることができます。

[専門科目群]

日本語学研究／対照日本語研究／日本語教育学研究／日本語教育実践研究／日本語文学・文化研究／日本比較文学・文化研究／日本社会研究／国際文化交流研究／Japan Studies／発信英語演習／発信日本語演習 等

日本語教育リカレントコース（1年コース・10月入学）

日本語教育リカレントコースは、国内外で働く現職の日本語教育者を対象に開設されました。本学で1年間、勉学・研究に専念して学位（修士号）を取得し、その後、所属機関に戻り、日本語教育の発展に貢献する道を歩む方が、募集の対象となります。

入学時期は、10月です。応募資格は、①3年以上の日本語教育歴をもつこと、②日本語が母語でない方については、日本語能力試験N2以上を取得していること、などです。

2017年10月に入学した第二期生は、タイ、マレーシア、インド、ドイツで日本語教育に従事している方々が合格し、それぞれの研究課題に取り組んでいます。今年からは日本国内の教育機関の日本語教員にも門戸が開かれます。

博士前期課程開講科目

総合国際学研究科	[研究科共通科目]	総合国際学研究基礎／異分野交流ゼミ／多文化コーディネーション研究／言語教育基礎／日本語教育基礎／世界史教育／国際行政入門／日本語教育実習研究
世界言語社会専攻	[専攻共通科目]	学術英語演習／学術日本語演習／学術ドイツ語演習／学術フランス語演習／学術イタリア語演習／学術スペイン語演習／学術ポルトガル語演習／学術ロシア語演習／学術ポーランド語演習／学術チェコ語演習／学術中国語演習／学術朝鮮語演習／学術モンゴル語演習／学術インドネシア語演習／学術マレーシア語演習／学術フィリピン語演習／学術タイ語演習／学術ラオス語演習／学術ベトナム語演習／学術カンボジア語演習／学術ビルマ語演習／学術ヒンディー語演習／学術ウルドゥー語演習／学術ベンガル語演習／学術アラビア語演習／学術ベルシア語演習／学術トルコ語演習／アジア・アフリカフィールドサイエンス基礎／アジア・アフリカフィールドサイエンス実践研究／修士論文修士研究ゼミ
	言語文化コース	英語学・英語教育学研究／ヨーロッパ・アメリカ言語研究／アジア・アフリカ言語研究／言語学研究／音声学研究／言語情報学研究／認知科学研究／通訳翻訳実践研究／ヨーロッパ・アメリカ文学・文化研究／アジア・アフリカ文学・文化研究／古典文学・文化研究／人間文化研究／アジア・アフリカフィールドサイエンス言語研究
	国際社会コース	ヨーロッパ・アメリカ地域研究／アジア・アフリカ・オセアニア地域研究／現代世界論研究／国際関係研究／アジア・アフリカフィールドサイエンス地域研究
	PCSコース	Foundation for Peacebuilding／Applied Peacebuilding／Conflict and Social Change／PCS Research Methodology／International Relations and Cooperation
国際日本専攻	[専攻共通科目]	日本語学研究／対照日本語研究／日本語教育学研究／日本語教育実践研究／日本語文学・文化研究／日本比較文学・文化研究／日本社会研究／国際文化交流研究／Japan Studies／発信英語演習／発信日本語演習／修士論文修士研究ゼミ

■ 総合国際学研究基礎

研究を遂行する基礎力を身につける

大学院生としてスタートを切る1年次春学期に、研究に必要なリサーチ力、プレゼンテーション力、ディベート力などを身につけ、研究基礎力を養うための授業です。リサーチデザイン、統計手法などに関する講義を受けると同時に、日本語や英語で研究計画をプレゼンテーションする機会も設けます。〈2単位必修〉

■ 専門科目群

専攻・コースに応じた多様な専門的な授業群

大学院での学びの中核となるのは専門科目の履修です。指導教員や副指導教員の授業、また関連する分野の教員の授業を履修します。そこでの指導に沿い修士研究を進めます。2年次には、「修士論文修士研究ゼミ」を履修し、修士論文を作成します。

■ 異分野交流ゼミ

分野や地域の枠を超えた活発な議論の輪

大学院生が数人単位でグループを形成し、分野や対象地域を超えた異分野交流を行うゼミです。異なる広がりをもつテーマを扱う学生が集まり、議論の中で自身の研究の足がかりを得ることを目的とします。テーマに関わる教員を「招待」し、そのコメントを活用することもスリリングで有用でしょう。〈2単位必修〉

■ 短期海外留学

Joint Education Programによる短期海外留学

本学では、春学期（4月～7月初旬）、夏学期（7月中旬～9月）、秋学期（10月～1月中旬）、冬学期（1月下旬～3月）からなるTUFSCクォーター制を採用しています。海外で長期にわたる調査・研究が可能となるように、夏学期と冬学期には必修科目を置いていません。また、夏学期や冬学期を中心に海外協定校と「Joint Education Program」を行っており、海外協定校の教員のもとで指導を受ける、資料収集や現地調査を行うなど、多様な短期海外留学の機会があります。海外大学のサマーコースに参加する選択肢も豊富です。春に説明会を行うなど、留学支援体制も充実しています。

■ 学術表現演習

論文を読むプレゼンをする

次の言語で行われます。英語、日本語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、ポーランド語、チェコ語、中国語、朝鮮語、モンゴル語、インドネシア語、マレーシア語、フィリピン語、タイ語、ラオス語、ベトナム語、カンボジア語、ビルマ語、ヒンディー語、ウルドゥー語、ベンガル語、アラビア語、ベルシア語、トルコ語

世界言語社会専攻	
言語文化コース	
研究領域	修士論文の題目
英語・英語教育学研究	イギリス英語における命令的接続法のコーパス研究 スピーキングとライティングにおける日本人英語学習者の中間言語発達の分析 日本人英語学習者における定形言語表現の語彙的・機能的発達
ヨーロッパ・アメリカ言語研究	スペイン語名詞句 N1 de N2 の意味論的内部構造 ―用途・対象の名詞句 N1 para N2 との交換可能性から― フランス語のフォーマルな話し言葉とインフォーマルな話し言葉における音の脱落
アジア・アフリカ言語研究	中国語から見た日本語の複合動詞「～だす」 ―対訳・誤用・正用データに基づいた分析― 日本文学作品の翻訳における文化および言語表現の解釈と伝達 ―川端康成『雪国』の歌語表現とそのインドネシア語訳を例として―
言語学研究	現代朝鮮語における否定表現の使用様相 ―否定形式の使い分けを中心に―
音声学研究	ペシルベニア中南部英語の発音 ―強母音の変位に関する社会言語学的考察―
通訳翻訳実践研究	産業翻訳業界における機械翻訳技術の活用状況および今後の展望分析 ―実務翻訳者の意識調査をもとに― 日本語の「役割語」がブラジル・ポルトガル語にどのように翻訳されるか
ヨーロッパ・アメリカ文学・文化研究	1870年代における広野の表象 エミール・ガレ その作品に見る重なり ソヴィエト・ウズベキスタンにおけるイーゼル絵画芸術の形成と展開 ―1920-30年代を中心に― フェルナンド・ベソアアにおける異名と劇空間の創造
アジア・アフリカ文学・文化研究	日本における『三国志演義』翻訳の研究 ―罵語における言葉遣いを中心に― 嚴歌苓の小説＜小姨多鶴＞における近代中国東北に生きた女性たち

国際社会コース	
研究領域	修士論文の題目
ヨーロッパ・アメリカ地域研究	イタリア文化外交とグローバル化 ―「システマ・バエーゼ局」の成立に見る実態と展望― フランクフルト・アウシュヴィッツ裁判と戦後西ドイツ「過去の克服」 ポリーバル主義とモンロー主義 ボリビアの教育改革と日本のODA ―「94年教育改革」と2010年「新教育法」の中での援助― 東ベルリンの再構築 ―冷戦期におけるスターリン大通りと都市計画―
アジア・アフリカ・オセアニア地域研究	侍衛から見る清朝の支配体制の特色 ―「北方民族」の特色の継承と「漢人」的要素の受容― 露土間の新ガスバイブライン“トルコストリーム” ―地域経済におけるトルコの役割― 18世紀イスタンブルにおける荷役組合の社会構造 ウズベキスタン・日本関係の展開 ―1991-2017― 香港の越境出産問題に見る対中国大陸認識の構造 二十世紀前半の内蒙古におけるモンゴル人女子教育 ―河原操子を中心として―
現代世界論研究	香港における高齢者の貧困問題 国民感情と歴史問題 ―「帝国の慰安婦」をめぐる裁判より― 在日外国人への地震防災教育 ―静岡県浜松市を事例として―
国際関係研究	国際環境紛争の解決理論の平和構築への応用 人材獲得戦略の視点から考える、米中移民政策の比較研究 ―外国人受入れ政策および法制を中心に― 米国の対日・対韓政策 ―70年代の同盟関係を中心に―

Peace and Conflict Studies コース

研究領域	修士論文の題目
Peace and Conflict Studies (PCS)	Anti-Korean Rhetoric in Japan : A Conflict between Ideology and Perceived Socioeconomic Disenfranchisement among Japanese 'Ultrationalist' Groups Assessing the Root Causes of Protracted Conflict in South Sudan, beyond Ethnicity Political Communication during the Syrian Crisis : A Comparative Analysis of Television Channels on the Domestic Level between 2010-2016 Returned Foreign Fighters of Russian Origin : Empirical Analysis on the Threat of Returnees on Russian Security The 2013-14 Euromaidan Revolution in Ukraine and the 2011-12 democracy movement in Russia : A comparative analysis of domestic factors The Aftermath of a Protest Movement : The Gezi Park Protests and Post-protest Political Organization in Turkey The Ebola Lens of Teenage Pregnancy in Sierra Leone : Exploration of Key Public Health Measures The Emergence of Gang Related Youth Violence in Post War Sierra Leone : An Exploration of Youth Violence in Freetown

国際日本専攻

国際日本コース	
研究領域	修士論文の題目
日本語学研究	談話における語彙表現の選択と読み手の既有知識 ―日本語とドイツ語を例に― 中日大学生による依頼メールの機能的要素の相違点 ―評価から見た丁寧さと要素の有無・提示順の関係について― 「させられる」述語文の意味と構文 ―人主語を中心に― 呼称における日中対照及び待遇機能 複合辞の一語性について ―生成文法のアプローチから―
日本語教育学研究	中国語を母語とする日本語学習者のオノマトペの習得状況 ―中国の大学における高学年学習者を対象に― 「慰め」ストラテジーについての対照研究 ―タイ語母語話者と日本語母語話者の場合― アラビア語を母語とするエジプト人日本語学習者の発話における「のだ」の習得研究 スリランカにおける日本語教師の教育観 ―中等教育機関の教師の語りからの考察― タンデム学習に対するピリーフに関する一考察 ベトナム人日本語学習者と日本語母語話者による二者間会話の会話分析 ―参加の対等性の観点から―
日本語文学・文化研究	三島文学における二重性と芸術性の関係 ―天皇観をめぐる― 戦後詩誌における「權」と詩人茨木のり子 ―戦争から造形された女性詩人― 村上春樹作品における動物の表象 ―風、羊と象を中心に― 大岡文学に表れる闘争と悲劇 ―その相対的存在を廻って― 平安朝における隠遁思想の受容と変容 ―都良良香・紀長谷雄と橘在列を中心に― 漱石前期作品における現実世界と「彼岸的世界」 ―『草枕』までの作品を中心に― 梶大介と梶満里子のパタヤ自立運動の研究 ―生活記録の読解と思想の考察―
日本社会研究	職場における異文化適応に影響を与える要因の分析 ―南米出身出稼ぎ労働者と日本人上司へのインタビュー調査をもとに― 中国日系企業における異文化間コンフリクトと解決方略 ―現地社員のライフストーリー・インタビュー調査を中心に― 日本在住中国人女性の子育てに関する認識 ―国際結婚女性を中心にしたライフヒストリー分析から― 日本におけるヘイト・スピーチ規制の現状と課題 ―アメリカドイトンの法規制の状況を参考にして―

世界言語社会専攻			
言語文化コース			
教員名	専門分野	沼野 恭子	ロシア文学
青山 亨	東南アジア宗教学	根岸 雅史	英語教育学
秋廣 尚恵	フランス語学	野平 宗弘	ベトナム文学
荒原 邦博	フランス文学、文化史	野元 裕樹	言語学、マレー語学
栗屋 利江	南アジア近代史	萩田 博	ウルドゥー語学・文学
五十嵐 孔一	朝鮮語学	橋本 雄一	中国近現代文学
市川 雅教	統計学	林 和宏	イタリア古典文学
岩崎 務	西洋古典文学	林 佳世子	オスマン朝史
上田 広美	カンボジア語学	匹田 剛	ロシア語学
浦田 和幸	英語学	藤縄 康弘	ドイツ語学
大谷 直輝（※）	英語学、認知言語学	降幡 正志	インドネシア語学
岡田 知子	カンボジア文学	ボルロンガン・アリアン・マカリンガ（※）	社会言語学
岡野 賢二	ビルマ語学	前田 和泉	現代ロシア文学
風間 伸次郎	アルタイ諸言語	益子 幸江	音声学
加藤 晴子	中国語学	真鍋 求	神経生理学
加藤 雄二	アメリカ文学・文化	萬宮（小牧） 健策	ウルドゥー語
金指 久美子	スラブ語学	丸山 空大（※）	宗教学、近代ユダヤ思想
川上 茂信	スペイン語学	水野 善文	インド思想
川口 裕司	フランス語学	峰岸 真琴	オーストラアジア諸語
久野 量一	ラテンアメリカ文学	箕浦 信勝	言語学、手話諸言語
黒澤 直俊	ポルトガル語学	三宅 登之	現代中国語
小久保 真理江（※）	芸術文化	望月 圭子	対照言語学
斎藤 弘子	英語音声学	望月 源	自然言語処理
逆井 聡人（※）	比較文学（近現代東アジア）	森田 耕司	スラヴ言語学
佐々木 あや乃	ベルシア古典文学	八木 久美子	宗教学、イスラム思想
佐野 洋	情報工学	山口 裕之	ドイツ文化・思想
塩原 朝子（A）	インドネシア諸言語の記述研究	山越 康裕（A）	モンゴル諸語
品川 大輔（A）	記述言語学	山本 真司	イタリア語学
島田 志津夫（※）	中央アジア地域研究	吉枝 聡子	イラン諸語研究
周 育佳（※）	言語教育学、英語教育学	吉富 朝子	第二言語習得
菅原 睦	チュルク語	吉本 秀之	科学技術史
鈴木 聡	アングロ・アイリッシュ文学		
鈴木 玲子	ラオス語学		
武田 千香	ブラジル文学		
田島 充士	教育心理学		
趙 義成	朝鮮語学		
ティップティエンボン・コースィット（※）	タイ文化・文学		
投野 由紀夫	コーパス言語学		
土佐 桂子	東南アジア人類学		
内藤 稔（※）	コミュニティ通訳研究		
中川 裕	音声学・音韻論		
中山 俊秀（A）	北米先住民諸言語		
長屋 尚典	言語学、オーストロネシア諸語		
南 潤珍	朝鮮語学		
成田 節	ドイツ語学		
西岡 あかね	ドイツ文学		
丹羽 京子	ベンガル文学		
温品 廉三（※）	モンゴル語学		

国際日本専攻

教員名	専門分野	工藤 嘉名子	日本語教育学
阿部 新	日本語教育学	小松 由美	異文化間コミュニケーション
荒川 洋平	認知言語学	坂本 恵	日本語学
石澤 徹（※）	日本語教育学	柴田 勝二	日本近代文学
伊集院 郁子	日本語教育学	菅長 理恵	日本語、日本文学
伊東 克洋（※）	日本語教育学	鈴木 智美	日本語教育学
イリス・ハウカンブ（※）	日本映画史、映画研究	鈴木 美加	日本語教育学
海野 多枝	言語教育学	伊達 宏子（※）	日本語教育学
大津 友美	日本語教育学	谷口 龍子	語用論、日本語教育学
川村 大	日本語学	友常 勉	日本思想史
木村 正美（※）	日本史、日本国際関係・外交	中井 陽子	日本語教育学
橋本 徹也	日本語学	中村 彰	日英統論

（A）：アジア・アフリカ言語文化研究所所属教員 （※）は主任指導教員になることができない教員
教員一覧の内容は2018年度当初の情報をもとに作成したものです。教員の異動等により、今後、変更の可能性があることをご了承ください。

Peace and Conflict Studies コース

教員名	専門分野
伊勢崎 賢治	平和構築
篠田 英朗	平和構築
松永 泰行	政治学、国際関係論

世界言語社会専攻

世界を複合的・総合的に捉える

世界言語社会専攻では、世界諸地域の言語・文化・社会を複合的・総合的に捉える視点から教育・研究を行います。専門的知識や研究能力をもちつつ、一方で総合的で柔軟な対応力をもって多面的な課題に取り組むことができる人材を養成し、社会に送り出します。本専攻には、開設科目の体系を明示するため、4つの教育プログラムを置きます。学生は、主任指導教員が指導する分野のプログラムを選択し、所属プログラム内で体系的に履修するとともに、領域横断的な視座を獲得するため、他のプログラムで開講する隣接分野の科目を幅広く履修することが可能です。本専攻で授与される学位は博士（学術）です。

言語文化研究プログラム

世界諸地域の言語や文化を個別あるいは対照的に研究対象とするとともに、複言語・複文化の視点を重視し、領域横断的な研究に取り組みます。

〔開講科目〕 言語学／言語情報学／英語学・英語教育学／音声学／ヨーロッパ・アメリカ言語論／アジア・アフリカ言語論／ヨーロッパ・アメリカ文学・文化論／アジア・アフリカ文学・文化論／人間文化論 等

国際社会研究プログラム

世界諸地域の具体的な歴史や社会、文化を分析し、国際社会の問題に取り組むための地域横断的な研究を行います。

〔開講科目〕 現代世界論／ヨーロッパ・アメリカ地域研究／アジア・アフリカ・オセアニア地域研究／国際関係論 等

アジア・アフリカフィールド研究プログラム

アジア・アフリカを対象に、フィールドワーク手法を特色・強みとする言語学研究、人類学研究、地域研究分野の研究者を養成するプログラムです。

〔開講科目〕 アジア・アフリカフィールド言語学／アジア・アフリカフィールド人類学／アジア・アフリカフィールド地域研究／アジア・アフリカフィールドワーク 等

Peace and Conflict Studiesプログラム（10月入学）

主に紛争当時国などからの留学生を受け入れ、国際社会で活躍し、平和構築に寄与する国際的リーダーを養成します。教育は英語で行われます。

〔開講科目〕 Applied Peacebuilding／Conflict and Social Change／Foundation for Peacebuilding etc.

〔養成する人材像〕

- ◎ 世界諸地域の言語の高度な運用能力をもち、その文化・社会に対する的確な知識・知見を身につけ、現代社会における諸課題を複合的・総合的に捉えることのできる人材
- ◎ 言語研究、文学・文化研究、地域研究、国際関係研究、紛争・平和構築研究（Peace and Conflict Studies）等の領域における高度な専門知識を身につけた人材
- ◎ 国内外の大学における研究者、国際機関等の専門職として活躍する高度職業人

2017年度博士論文

Post-war instability and Human Security in Nepal

Community Forestry in Palpa District, Nepal
Impact of Community Forestry in a Local Community

「韓国文化財」形成過程に関する史的考察
―植民地期「朝鮮文化財」研究の成立と言説空間の形成―

保留地におけるカトリック・ミッションの存在と
ラコタ・アイデンティティ形成への影響

現代韓国語の動詞の連体修飾構造に関する研究
―動詞の連体形と被修飾名詞の共起様相―

ニ格の名詞と動詞からなる連語について

汉语动结式与受事前置现象的句法语义分析
中国語結果補語文における目的語前置現象の意味と構文

満洲国軍朝鮮人の植民地解放前後史
―日本植民地下の軍事経験と韓国軍への連続性―

Italo Calvino nella letteratura mondiale :
la ricezione in Cina e in Giappone

Skills and Training Required for Museum Professionals
in the Changing Environment Surrounding Museums

アラビア語文学史から見る―20世紀のエジプトにおけるナショナリズム―

シュティルスキーの詩学
―1930年代のチェコ・シュルレアリスム、絵画、写真、コラージュ、詩―

ビール騒擾と営業権限
―19世紀前半ミュンヘンにおける都市・営業・民衆―

酒井和也とラテンアメリカの「新たな芸術」
―帰国二世アーティストの移動と表現―

カナダ・スナプト準州のイスイットの社会変化と教育
―イカルイトでの事例研究を中心に―

国際日本専攻

国際的な視座で「日本」を研究する

国際日本専攻では、国際的な視座から「日本」を研究するため、総合的な日本研究の視野を涵養しつつ、日本語研究、日本語教育研究、日本語文学・文化研究、日本歴史社会研究等の専門分野に応じた体系的な研究指導を行います。昨今の国際情勢の中で、「世界の中の日本」を客観的に理解したうえで、世界に向け日本を発信することができる人材の育成が急務となっていることから、本専攻は、こうしたニーズに応える日本人・留学生を社会に送り出します。本専攻で授与される学位は博士（学術）です。

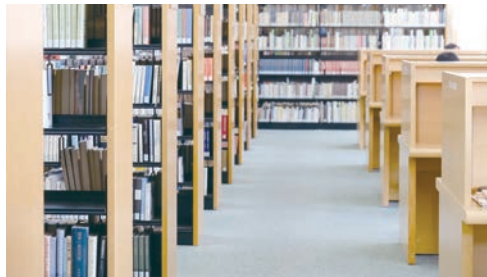
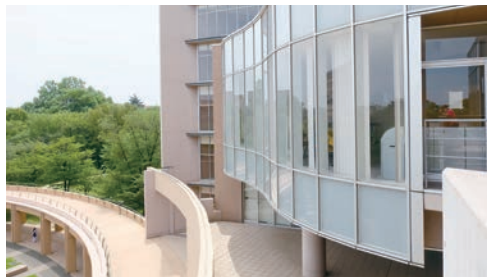
国際日本研究プログラム

日本に関する分野の専門知識を備えると同時に、広く日本を俯瞰し、世界の中での日本を論じることのできる能力を身につけます。

〔開講科目〕 日本言語論／日本語教育論／言語教育論／日本語文学・文化論／日本歴史社会論／日本政治経済論／Japan Studies 等

〔養成する人材像〕

- ◎ 日本に関する分野の専門知識を備えると同時に、広く日本を俯瞰し、世界の中での日本を論じることのできる能力を身につけた人材。特に、留学生の場合は、研究遂行に必要な高度な日本語力と、日本社会への理解を備えた人材
- ◎ 日本語研究、日本語教育研究、日本語文学・文化研究、日本歴史社会研究、日本政治経済研究などの分野についての深い専門知識を身につけた人材
- ◎ 国内外の大学における研究者および当該分野の専門知識をもった高度職業人。海外の高等教育機関等で活躍する日本語教育者



2017年度博士論文

初対面雑談会話における日本語母語話者及び
非母語話者の話題導入と話題展開

現代日本語の可能表現に関する研究
―一段動詞及びカ変動詞「来る」を中心に―

通訳・翻訳プロセスモデルの検討―
そのプロセスにおける明晰化ストラテジーを中心に
―ベトナム語-日本語の通訳・翻訳の場合を事例として―

視線関係によるボライトネスの日中対照研究
―ディスコースボライトネス理論の観点から―

Jesuits and the Problem of Slavery in Early Modern Japan

共同サステイナビリティ研究専攻

2019年度設置申請中

イノベーションを生み出す

共同サステイナビリティ研究専攻は、東京農工大学、電気通信大学、そして本学の三大学が共同で設置する複合新領域の研究専攻です。2019年度の新設を構想し、設置申請しています。

設置の背景

- ◎ 国際社会における日本の取り組みの不足
(SDGsの達成状況、国際機関における人的貢献など)
- ◎ 国際社会が抱えるさまざまな問題
(環境・エネルギー、生産・消費、労働、飢餓、貧困)
- ◎ 企業から求められる教育・人材
(理論に加えて、実社会とのつながりを意識した教育、チームを組んで特定の課題に取り組む経験、分野横断型の発想でさまざまな課題を解決できる人材)

東京外国語大学の強み

世界の言語とそれを基底とする文化一般を、理論と実践により研究教育し、現代世界が抱えるさまざまな課題をグローバルな視点から解決する能力を備えた国際職業人を育成

- ▶ 言語・リベラルアーツ及び地域研究

東京農工大学の強み

農学、工学及びその融合領域において、高度な研究能力を備えながら、国際社会で指導的な役割を担うことのできる対話力・対応力を有する国際理系イノベーション人材を育成

- ▶ 食料、エネルギー、ライフサイエンス

電気通信大学の強み

情報分野、情報通信分野、ロボット制御分野、光工学分野において、グローバルな視野とイノベティブな高度専門技術者の育成

- ▶ ビッグデータ、ICT、人工知能、光工学

特色

- ◎ これまでの三大学によるさまざまな連携事業の実施をもとに人材養成を展開
- ◎ 文理各分野における卓越・ユニークな単科大学の協働により、国内外で活躍する強い人材を養成
- ◎ 西東京エリアの近接地における実質的・効果的な教育の展開

- ◎ 複合新領域の研究の推進

養成する人材像

自身の専門性に軸足を置き、その専門的な観点からSDGsの課題を捉えつつ、他分野の研究成果を取り入れることによってイノベーションを生み出すことができる学際的、越境的な実務人材の育成

具体的な能力・学識

- ◎ 普遍的かつ実践的学識を基盤とする国際感覚と倫理観（国際的センス）
- ◎ 国際社会の現場で広範に適用できる実践的な基礎理論と技法（スキル）
- ◎ 政治・経済、食料・生命、エネルギー・資源・環境、ICT・人工知能、医療・福祉・健康等の領域における高度で専門的な知見と研究力
- ◎ 異文化・異分野の背景や価値観を理解し、多様な見解を調整できる適用力と調整できる合意形成力
- ◎ 国際通用性のある倫理的思考力と機能的伝達能力（コミュニケーション力）

入学定員

東京外国語大学（総合国際学研究科） 3人

東京農工大学（工学府） 4人

電気通信大学（情報理工学研究科） 4人

学位

Doctor of Philosophy 博士（学術）

期待・要望

協働による人材養成を展開

博士後期課程教員一覧

教員一覧の内容は2018年度当初の情報をもとに作成したものです。教員の異動等により、今後、変更の可能性があることをご了承ください。

世界言語社会専攻

言語文化研究プログラム

教員名	専門分野
青山 亨	東南アジア宗教史
秋廣 尚恵	フランス語学
荒原 邦博	フランス文学、文化史
栗屋 利江	南アジア近代史
五十嵐 孔一	朝鮮語学
岩崎 務	西洋古典文学
上田 広美	カンボジア語学
浦田 和幸	英語学
岡田 知子	カンボジア文学
岡野 賢二	ビルマ語学
風間 伸次郎	アルタイ諸言語
加藤 晴子	中国語学
加藤 雄二	アメリカ文学・文化
金指 久美子	スラブ語学
川上 茂信	スペイン語学
川口 裕司	フランス語学
久野 量一	ラテンアメリカ文学
黒澤 直俊	ポルトガル語学
斎藤 弘子	英語音声学
佐々木 あや乃	ベルシア古典文学
佐野 洋	情報工学
菅原 睦	チュルク語
鈴木 聡	アングロ・アイリッシュ文学
鈴木 玲子	ラオス語学
武田 千香	ブラジル文学
田島 充士	教育心理学
趙 養成	朝鮮語学
投野 由紀夫	コーバス言語学
土佐 桂子	東南アジア人類学
中川 裕	音声学・音韻論
長屋 尚典	言語学、オーストロネシア諸語
南 潤珍	朝鮮語学
成田 節	ドイツ語学
西岡 あかね	ドイツ文学
丹羽 京子	ベンガル文学
沼野 恭子	ロシア文学
根岸 雅史	英語教育学
野平 宗弘	ベトナム文学
野元 裕樹	言語学、マレー語学
橋本 雄一	中国近現代文学
林 和宏	イタリア古典文学
林 佳世子	オスマン朝史
匹田 剛	ロシア語学
藤縄 康弘	ドイツ語学
降幡 正志	インドネシア語学

前田 和泉	現代ロシア文学
益子 幸江	音声学
萬宮（小牧） 健策	ウルドゥー語
水野 善文	インド思想
箕浦 信勝	言語学・手話諸言語・アサバス力語
三宅 登之	現代中国語
望月 圭子	対照言語学
望月 源	自然言語処理
森田 耕司	スラヴ言語学
八木 久美子	宗教学、イスラム思想
山口 裕之	ドイツ文化・思想
吉枝 聡子	イラン諸語研究
吉富 朝子	第二言語習得
吉本 秀之	科学技術史

国際社会研究プログラム

教員名	専門分野
青木 雅浩	モンゴル近現代史
青山 弘之	現代東アラブ政治
伊東 剛史	イギリス近代史
今井 昭夫	ベトナム近現代史
今福 龍太	メディア批評
岩崎 稔	哲学、政治思想
岡田 昭人	比較・国際教育学
小川 英文	東南アジア考古学
小田原 琳	イタリア史
加藤 美帆	教育社会学
蒲生 慶一	国際経済学
菊池 陽子	ラオス近現代史
金 富子	ジェンダー論
久米 順子	西洋美術史
倉田 明子	中国近代史
坂井 真紀子	アフリカ開発社会学
澤田 ゆかり	現代中国研究
篠原 琢	中東欧近代史
鈴木 茂	ブラジル史
鈴木 美弥子	民法
鈴木 義一	現代ロシア研究
芹生 尚子	フランス社会史（近世・近代）
左右田 直規	マレーシア政治社会史
高橋 均	ラテンアメリカ史
田島 陽一	国際経済学
千葉 敏之	ヨーロッパ中世史
丹羽 泉	朝鮮宗教学
藤井 毅	インド近現代史
真島 一郎	文化人類学

松隈 潤	国際法
宮田 敏之	タイ経済研究
山内 由理子	オセアニア地域研究
吉田 ゆり子	日本近世史
米谷 匡史	日本思想史
若松 邦弘	比較政治

Peace and Conflict Studies プログラム

教員名	専門分野
伊勢崎 賢治	平和構築
篠田 英朗	平和構築
松永 泰行	政治学・国際関係論

アジア・アフリカフィールド研究プログラム

教員名	専門分野
荒川 慎太郎	西夏語学
飯塚 正人	中東地域研究
石川 博樹	アフリカ史
伊藤 智ゆき	音韻論
太田 信宏	インドの歴史
小田 淳一	計量文献学
刈谷 康太	西アフリカ・イスラーム地域研究
河合 香史	東アフリカ牧畜民研究
栗原 浩英	ベトナム現代史
呉人 徳司	言語学
黒木 英充	東アラブ近・現代史
近藤 信彰	イラン近代史
澤田 英夫	ビルマ系少数民族言語
惟野 若菜	東アフリカ民族誌学
塩原 朝子	インドネシア諸言語の記述研究
品川 大輔	記述言語学
高島 淳	宗教学（ヒンドゥー教）
高松 洋一	古文書学、オスマン朝史
外川 昌彦	南アジアの人類学
床田 郁哉	東南アジア人類学
中山 俊秀	北米先住民諸言語
西井 凉子	東南アジア人類学
錦田 愛子	中東地域研究
野田 仁	中央アジア史
深澤 秀夫	社会人類学
星 泉	チベット語学
峰岸 真琴	オーストロアジア諸語
山越 康裕	モンゴル諸語
渡辺 己	セリッシュ語

国際日本専攻

教員名	専門分野
阿部 新	日本語教育学
荒川 洋平	認知言語学
海野 多枝	言語教育学
川村 大	日本語学
柴田 勝二	日本近代文学

鈴木 智美	日本語教育学
谷口 龍子	語用論、日本語教育学
友常 勉	日本思想史
中井 陽子	日本語教育学
花園 悟	日本語学
早津 恵美子	日本語学

フィリップ・シートン	現代日本研究
藤森 弘子	日本語教育学
宮城 徹	異文化間コミュニケーション
村尾 誠一	日本古典文学

共同サステイナビリティ研究専攻

教員名	専門分野
武内 進一	アフリカ研究、国際関係論

中山 智香子	経済思想・社会思想
--------	-----------

李 孝徳	比較文学
------	------

※ 現在構想中であり、変更になる可能性があります。

博士前期課程修了者の主な就職先		
■ 製造業	■ 卸売・小売業	■ 医療、福祉
(株)伊藤園／出光興産(株)／住友化学(株)／(株)ブリヂストン／住友電気工業(株)／蛇の目ミシン工業(株)／住友スリーエム(株)／カシオ計算機(株)／ソニー(株)／ダイキン工業(株)／(株)東芝／日本アイ・ピー・エム(株)／日本電気(株)／日本トムソン(株)／日本ヒューレット・パッカード(株)／パナソニック(株)／(株)日立製作所／富士ゼロックス(株)／富士通(株)／本田技研工業(株)／マツダ(株)／三菱自動車工業(株)／三菱重工業(株)／森永乳業(株)／矢崎総業(株)／(株)ソニー・コンピュータエンタテインメント／大王製紙(株)／(株)リコー／ヤマハ(株)／日立アプライアンス／日立オートモティブシステムズ(株)	宇津商事(株)／(株)カインズ／住友商事(株)／(株)セブンイレブン・ジャパン／双日(株)／豊田通商(株)／(株)日立ハイテクノロジーズ／三井物産(株)／三菱商事(株)／森村商事(株)／(株)ルイ・ヴィトンジャパンカンパニー／(株)ユニクロ／(株)ニトリ	日本赤十字社
■ 電気・ガス・熱供給・水道業	■ 金融業・保険業	■ サービス業
中国電力(株)／東京ガス(株)	アメリカン・エクスプレス・ジャパン(株)／岡三証券(株)／JPモルガン証券(株)／ソシエテ・ジェネラル証券(株)／大和証券(株)／日本銀行／(株)日本政策投資銀行／(株)日本政策金融公庫／みずほ証券(株)／(株)三菱UFJ銀行／(株)ゆうちょ銀行	(独)国際交流基金／(独)日本学術振興会／(財)日本国際協力システム／(独)日本貿易振興機構アジア経済研究所／(株)図書館流通センター／(公財)新国立劇場運営財団／(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構／(独)住宅金融支援機構／(公社)日本・インドネシア経済協力事業協会／ヒューマンリソシア(株)／(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構／(社)日本貿易会
■ 鉱業、採石業、砂利採取業	■ 建設業	■ 公務
国際石油開発帝石(株)	新日鐵住金エンジニアリング(株)／大成建設(株)	外務省／国立国会図書館／総務省(関東管区行政評価局)／東京都庁／農林水産省／防衛省(※自衛隊など含む)／横浜市役所
■ 情報通信業	■ 不動産業	■ 学術研究専門・技術サービス業
(株)インターネットイニシアティブ／(一社)共同通信社／慶應義塾大学出版会(株)／小松情報システムサービス(株)／(株)産業経済新聞社／上海東方テレビ(中国)／(株)集英社／(株)大和総研／(株)中日新聞社／(株)日本経済新聞社／(株)西日本新聞社／日本放送協会(NHK)／(株)東日本放送／(株)毎日新聞社／富士ソフト(株)／富士ゼロックスシステムサービス(株)／明治図書出版(株)／読売新聞グループ／(株)リクルートホールディングス／勉誠出版(株)／(財)ラチオプレス	野村不動産(株)	アクセンチュア(株)／アンダーソン・毛利・友常法律事務所／グレイステクノロジー(株)／(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構／(株)テクニカルトランスレーションハウス／デロイトトーマツコンサルティング(株)／(株)電通／(財)日本海事協会／日本工営(株)／(株)ヒューマンサイエンス／(株)ホンヤク出版社／(株)ワールドインテック
■ 運輸業、郵便業	■ 教育、学習支援業・学校教育	■ 生活関連サービス業、娯楽業
(株)商船三井／ヤマト運輸(株)	慶應義塾大学／(独)日本学生支援機構／(株)栄光／神奈川県立高等学校／鎌倉学園中学校・高等学校／佼成学園女子中学高等学校／國學院高等学校・埼玉県立小学校／昭和学院秀英中学校・高等学校／帝京大学／(株)Z会／東京外国語大学／東京大学／東京都立中学校／(株)ベネッセコーポレーション／宮城県立高等学校／山形県立高等学校／早稲田大学／東京農業大学／海城中学高等学校／ベオグラード大学(セルビア)／女子学院中学校・高等学校／学習院女子中・高等科／福州大学(中国)	(株)オリエンタルランド／(株)JTB／(株)CECIL／クラブツーリズム(株)

博士後期課程修了者の主な就職先		
■ 情報通信業	■ 教育、学習支援業・学校教育	■ サービス業
NHN PlayArt(株)	厦門大学(中国)／京都産業大学／高知大学／国際交流基金バンコク日本文化センター／島根大学／駿河台大学／西南学院大学／燕山大学外国語学院(中国河北省)／青島科学技術大学(中国山東省)／帝京科学大学総合教育センター／東京外国語大学／明星大学／早稲田外国語学校／名古屋外国語大学／国際教養大学／タシケント国立東洋学大学(ウズベキスタン)／中央大学高等学校	(独)日本貿易振興機構アジア経済研究所
■ 卸売・小売業	■ 公務	
(株)Super Dieboard System in Japan	法務省	

大学院総合国際学研究科は、世界諸地域の言語の運用能力を基礎とした、言語・文化・社会をめぐる個別的かつ総合的な研究の伝統を特色とする教育機関です。さらに、このような伝統を踏まえながらも、常に時代の変化に対応した刷新を図っています。

2016年度には博士前期課程を、2018年度には博士後期課程を改編し、それぞれに「世界言語社会専攻」と「国際日本専攻」を設けました。

近年のグローバル化により、人・もの・資本・情報の越境が量的・質的に拡大し、わたしたちに多くの恩恵がもたらされた一方で、世界規模での格差の拡大や難民問題など複雑な課題が生み出され、わたしたちが取り組むべき問題はむしろいっそう多面的で複雑になっています。

このような状況に対応できる能力を身につけるためには、固定化された学問分野の枠組みにとらわれない柔軟な教育体制が必要です。そのため、従来の4専攻を融合して「世界言語社会専攻」とし、多様な問題に対して、俯瞰的な視点によって物事を捉える総合力と、コミュニケーションやコーディネーションの具体的な実践力を併せもった人材の養成をスタートさせました。

他方、日本という地域・社会についてもグローバルなコミュニティとの関係性の中で捉える必要がますます大きくなっていることから、日本地域・日本語の教育研究を行う「国際日本専攻」を設置しました。この新しい専攻には国内外の先進的研究者も招聘し、「世界の中の日本」を客観的な視座をもって理解し、世界に向け日本を発信することのできる人材の養成を目指します。

さらに、2019年度の新設にむけて、東京農工大学、電気通信大学、そして本学の三大学が共同で運営する複合新領域に研究専攻として、博士後期課程に「共同サステイナビリティ研究専攻」の設置を申請しました。各自の専門的観点からSDGsの諸課題を捉えつつ、他分野の研究成果を取り入れることによってイノベーションを生み出すことができる学際的・越境的な実務人材の育成を目指しています。

このように常に生まれ変わっていく本学大学院において、新たな視点による世界と日本についての新たな理解を探究し、「総合国際学」をさらに深化させようとするわたしたちのチャレンジに、皆さんが熱意をもって参加してくださることを心より願っています。

大学院総合国際学研究科長 青山 亨

博士前期課程

1. 募集人員

専攻	入学定員	コース	募集人員	秋季	冬季	合計
			特別選抜 (推薦)			
世界言語社会専攻	102人	言語文化コース	若干名	50人*	若干名	50人
		国際社会コース	若干名	40人*	若干名	40人
		Peace and Conflict Studiesコース	—	—	12人	12人
国際日本専攻	46人	国際日本コース	若干名	40人*	若干名	40人
		日本語教育リカレントコース	—	6人	—	6人

*秋季募集の募集人員には、「冬季募集」「特別選抜（推薦入試）」の募集人員を含む。

2. 入学試験日程

特別選抜（推薦入試）〔2019年4月入学〕

出願期間	選抜期日		第1次合格者発表		入学手続
	第1次選考 (書類選考)		第2次選考 (口述試験)	最終合格者発表	
2018年 8/1 _国 ~8/3 _国	2018年 8/下旬	2018年 8/24 _国	2018年 9/1 _国	2018年 9/7 _国	2019年 1/22 _国 ~1/23 _国

秋季募集〔2019年4月入学〕

出願期間	選抜期日		最終合格者発表		入学手続
	筆答試験	口述試験			
2018年 9/19 _国 ~9/25 _国	2018年 10/13 _国	2018年 10/14 _国	2018年 11/2 _国		2019年 1/22 _国 ~1/23 _国

冬季募集〔2019年4月入学〕

■ 世界言語社会専攻

出願期間	選抜期日		最終合格者発表		入学手続
	筆答試験	口述試験			
2019年 1/4 _国 ~1/8 _国	2019年 2/2 _国	2019年 2/2 _国 ~2/3 _国	2019年 2/15 _国		2019年 3/26 _国 ~3/27 _国

■ 国際日本専攻

出願期間	選抜期日		最終合格者発表		入学手続
	第1次選考 (書類選考)	第1次合格者発表	第2次選考 (口述試験)	最終合格者発表	
2019年 1/4 _国 ~1/8 _国	2019年 1/中旬	2019年 1/18 _国	2019年 2/2 _国 ~2/3 _国	2019年 2/15 _国	2019年 3/26 _国 ~3/27 _国

世界言語社会専攻 Peace and Conflict Studiesコース〔2019年10月入学〕

出願期間	選抜期日		入学手続
	口述試験	最終合格者発表	
2019年 1/4 _国 ~5/10 _国	2019年 個別に設定	2019年 6/下旬	2019年 6/下旬~7/月上旬

国際日本専攻 日本語教育リカレントコース〔2019年10月入学〕

出願期間	選抜期日		入学手続
	口述試験（Skype面接）	最終合格者発表	
2018年 9/19 _国 ~9/25 _国	2018年 10/9 _国 ~10/14 _国	2018年 11/2 _国	2019年 6/下旬~7/月上旬

※本コースは、日本国外に在住する現職の日本語教員を対象として募集する。

博士後期課程

1. 募集人員

専攻	募集人員	10月入学	合計
	4月入学		
世界言語社会専攻	22人	5人*	27人
国際日本専攻	9人	1人	10人
共同サステイナビリティ研究専攻	2人	1人	3人

*世界言語社会専攻の「10月入学」に志願できる者は、次のいずれかに該当する者とする。

- ①Peace and Conflict Studies（PCS）分野を志願する者
- ②出願時において、日本国を含む各国政府機関や国際機関等の正規の職員として、日本国以外で勤務中の者
- ③その他、個別の審査により、本学大学院総合国際学研究科長が適当と認めた者

2. 入学試験日程

〔2019年4月入学〕

出願期間	論文提出期間	選抜期日		最終合格者発表		入学手続
		筆答試験	口述試験			
2018年 11/19 _国 ~11/22 _国	2018年 2019年 11/19 _国 ~1/8 _国	2019年 1/26 _国	2019年 1/26 _国 ~1/27 _国	2019年 2/15 _国		2019年 3/26 _国 ~3/27 _国

〔2019年10月入学〕

出願期間	論文提出期間	選抜期日	最終合格者発表		入学手続
		口述試験			
2019年 3/1 _国 ~5/10 _国	2019年 3/1 _国 ~6/3 _国	2019年 5/下旬~6/月上旬	2019年 6/下旬		2019年 7/下旬